

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月24日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520327

研究課題名（和文）日独比較文学・比較文化の新展開—文化学の諸理論の応用—

研究課題名（英文）New Perspectives for German-Japanese Comparative Culture and Literature: Application of Theories of German Cultural Studies

研究代表者

縄田 雄二（NAWATA YUJI）

中央大学・文学部・教授

研究者番号：20251382

研究成果の概要（和文）：

①ヨーロッパの文化史のみを対象としがちなドイツ語圏の文化学の諸手法を、地球規模の比較文化論に開いた。②東アジアの文学、文化の研究に、今まで無かったような清新な視点を、ドイツ語圏の人文科学の最前線で開拓されつつある理論によってもたらした。③ポストコロニアル理論と異なる方法により、植民地と文学との関係を分析し、植民地文学論に新たな展開をもたらした。④歴史学が近年発展させた「グローバル・ヒストリー」に、文化史研究によって独自の貢献をした。以上、文化学、比較文学、比較文化、東アジア文学研究、グローバル・ヒストリーそれぞれに新たな局面を切り開く、重要な成果を挙げ得たと信ずる。

研究成果の概要（英文）：

This project 1) examined the applicability of various methods of German cultural studies, which had tended to limit themselves to European cultural history, to comparative cultural studies on a global scale; 2) sought to bring a fresh point of view to East Asian cultural and literature studies through theories that remain at the forefront of German humanities; 3) used methods different from postcolonial theory to analyze the relationship of colonies and culture, serving to extend colonial literature studies; and 4) made an original contribution through cultural history research to the field of global history, which has been advanced by historical studies in recent years. I believe this project achieved important results by opening up new aspects of cultural studies, comparative literature studies, comparative cultural studies, East Asian literature studies and global history.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	400,000	120,000	520,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
2012年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：文化学、グローバル・ヒストリー、メディア史、詠物詩

1. 研究開始当初の背景

近年のドイツ語圏においては、文化学(Kulturwissenschaft)によって人文科学が刷新された。哲学研究、文学研究、歴史研究など、文献学を基礎とした諸学を、メディア史学、学問史学、記憶論、映像論、パフォーマンス論など、文化学の諸理論が分野横断的に結んだのである。文化学が人文科学全体の刷新である以上、それを比較文化・比較文学に適用した場合の応用の幅も広い。日独比較文化・比較文学についても、なすべきことはたくさんある。本研究はこの課題に取り組んだ。

2. 研究の目的

ドイツ語圏の人文科学を刷新した文化学を、比較文化・比較文学に応用する可能性は、十分に開拓されていたとは言えない。ドイツ語圏の文化・文学と、日本の文化・文学とを比較する研究についても、文化学の手法を以てする研究は未だに十分とは言えない。本研究は、文化学の観点から日独比較文化・比較文学を行い、ケーススタディで新たな知見を得るとともに、文化学によって開かれる比較文化・比較文学の可能性を展望しようとした。

3. 研究の方法

文献収集、口頭発表、意見交換

4. 研究成果

(1) 平成 22 年度

立教大学におけるシンポジウム「同時性・翻訳・変容」において、「Simultaneität der Kulturen im Prozess der Bildung der Weltgesellschaft(世界社会形成の過程における諸文化の同時性)」という口頭発表を行

った。1800 年前後のドイツ語圏と日本において、書籍市場が同様に拡大、それが類似した文学傾向をもたらした現象を分析した。メディア史論、画像論を比較文学、比較文化に応用したものである。

本科研は、基盤研究(B)「ヒューマン・プロジェクト:人間学の文化史的視点からの再構築」(研究課題番号 22320065)と補完しあう面があるが、後者の科研の一環としてのシンポジウム“Die Frag-Wuerdigkeit des Menschen”でも「“Human Project”in der japanischen Moderne(近代日本における「ヒューマン・プロジェクト」)」との口頭発表を行い、双方の科研にとっての成果を披露した。ヨーロッパの人間概念、また、文化学の基礎である文化概念の日本への移入を、森鷗外のコッタ社宛ドイツ語書簡、西田幾多郎のエルンスト・ホフマン宛ドイツ語書簡、アルトゥア・シュニッツラーの山本有三宛書簡(1926年)など、いずれも未紹介ではないかとも思われる資料を材料に論じた。

1900 年前後にドイツ語で書いた戯曲をドイツで刊行した、作家にして学者、北里闌が、自然主義の作家コンラート(Michael Georg Conrad)に出した書簡やはがきも見出した。

(2) 平成 23 年度

『文学』(岩波書店)に載った「マールバッハとハイデルベルクに見出された日独交流資料—森鷗外・西田幾多郎・山本有三」は、昨年度の口頭発表を印刷公表したものである。ここでは文化学(Kulturwissenschaft)の前提となる、文化(Kultur)概念を、鷗外や西田がいかに受容したかを分析、またシュニッツラーと有三の文学を、文化学の観点

(メディア史論や学問史論)から比較した。この論文の副産物が「田辺元のカール・ヤスパース宛電報」(岩波書店『思想』に発表)、「西田幾多郎のエルンスト・ホフマン宛ドイツ語書簡」(西田幾多郎記念哲学館『点から線へ』に発表)である。以上の論で取り上げた鷗外、シュニッツラー、西田、田辺らの手紙や電報は、これまで未紹介であった可能性が高い。貴重な日独交流資料を紹介し論じた意義は小さくないと考える。

“Simultaneität der Kulturen im Prozess der Bildung der Weltgesellschaft” (昨年度の口頭発表)と“Von der Traumgestalt zum Ding. Eduard Moerikes Literatur im Zeitalter der Photographie” (今年度行った講演)は、あわせて詠物詩(Dinggedicht)の日独比較論となる、一対の論である(用いた文化学理論はメディア史論と映像論である)。前者は印刷中であり、後者を印刷公表する作業も進捗した。詠物詩研究を、狭い文学研究の枠から解き放ち、文化学と文化比較という広い枠に置き直しつつ、大きく進展させられたと信ずる。

『思想』に掲載された「フリードリヒ・キットラーを悼む」では、フリードリヒ・キットラーに代表されるドイツの文化学と、和辻哲郎に代表される日本の文化学を比較、私の研究をその中に位置づけることを試みた。

(3) 平成 24 年度

平成 24 年度以前からの研究の成果であるが、ドイツ語で著書『比較メディア史—18 世紀末から 20 世紀末にかけてのドイツ文学・日本文学を例に』を上梓した。ドイツ語圏の人文科学を近年刷新した「文化学」(Kulturwissenschaft)の一手法、「メディア史」(Mediengeschichte)を、日独比較文学・比較文化に応用したものである。

メーリケの詠物詩が、メーリケと写真との出会いから生まれたとの説を、格の高さを誇る学術誌“*Weimarer Beiträge*”においてドイツ語で提唱した。

詠物詩は東アジアの漢詩の伝統でもある。李氏朝鮮の Yi Ik (文字化けを避けてアルファベットで表記)、丁若鏞、金笠が、眼鏡という、ヨーロッパが生んだ一種の光学器械を詠んだ詠物詩を分析、ソウルの Goethe-Institut Korea でドイツ語で口頭発表し、印刷にも付した。同時代の日本において、顕微鏡や望遠鏡を詠じた詠物詩を分析した論文もドイツ語で刊行された。

以上二つの論考と、“*Simultaneität der Kulturen im Prozess der Bildung der Weltgesellschaft*”は、メディア史、図像論、学問史といった文化学の手法を応用したものであり、三つ併せて、詠物詩と光学器械との関係を、地球規模の文化史の脈絡において比べた比較文化論となった。

ドイツのワイマール・バウハウス大学 IKK で行った講演では、アフリカのドイツ植民地を舞台としたトーマス・フォン・シュタインエッカーの現代小説を文化学の手法によって読み解いた。ポストコロニアル理論と異なる方法により、植民地と文学との関係を分析し、植民地文学論に新たな展開をもたらしたと信ずる。

(4) 総括

①ヨーロッパの文化史のみを対象としがちなドイツ語圏の文化学の諸手法を、地球規模の比較文化論に開いた。②東アジアの文学、文化の研究に、今まで無かったような清新な視点を、ドイツ語圏の人文科学の最前線で開拓されつつある理論によってもたらした。③ポストコロニアル理論と異なる方法により、植民地と文学との関係を分析し、植民地文学

論に新たな展開をもたらした。④歴史学が近年発展させた「グローバル・ヒストリー」に、文化史研究によって独自の貢献をした。以上、文化学、比較文学、比較文化、東アジア文学研究、グローバル・ヒストリーそれぞれに新たな局面を切り開く、重要な成果を挙げ得たと信ずる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

・Yuji Nawata: Übersetzungsforschung als eine Möglichkeit der komparatistischen Kulturwissenschaft. Am Beispiel chinesischsprachiger Texte über Brillen aus dem vormodernen Korea. In: Journal of the Faculty of Letters, Chuo University (Tokyo, Japan). Nr. 245 (2013). S. 27-42. 査読無し

・Yuji Nawata: Von der Traumgestalt zum Ding. Eduard Mörikes Literatur im Zeitalter der Photographie. In: Weimarer Beiträge. 58. Jg., Heft 3 (2012). S. 423-435. 査読有り

・縄田雄二 「フリードリヒ・キットラーを悼む」『思想』(岩波書店)第1055号(2012年3月号)136-142頁 査読無し

・縄田雄二 「マールバッハとハイデルベルクに見出された日独交流資料——森鷗外・西田幾多郎・山本有三」『文学』(岩波書店)第12巻第6号(2011年11・12月号)171-195頁 査読無し

[学会発表] (計5件)

Yuji Nawata: Telegraphic Synchronization in a German Colony in Africa: On Thomas von Steinaecker's Novel "Schutzgebiet" (Bauhaus-Universität Weimar, IKKMにおける学術講演シリーズ "IKKM Lectures" の一環として2012年5月23日に講演)

[図書] (計2件)

・(共著) Yuji Nawata: Simultaneität der Kulturen im Prozess der Bildung der Weltgesellschaft. In: Keiko Hamazaki/Christine Ivanovic (Hrsg.): Simultaneität - Übersetzen. Tübingen: Stauffenburg. S. 169-185. (2013年に刊行予定、報告書執筆の時点で印刷中)

・ Yuji Nawata: Vergleichende Mediengeschichte. Am Beispiel deutscher und japanischer Literatur vom späten 18. bis zum späten 20. Jahrhundert. München: Fink 2012. 277 S.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

縄田 雄二 (NAWATA YUJI)

中央大学・文学部・教授

研究者番号: 20251382